

「ドングリ・ポケット運動」 による森林づくり

旭川営林支局造林課長 富澤 多美男



はじめに

近年、国民の森林に対する期待・要請は木材生産や国土保全にとどまらず、週休2日制の拡大、「ゆとり」時間の有効的活用といった面から、自然とのふれあいの場や教育文化活動の場としての活用など多様化・高度化してきています。同様に、私たちが生活する北海道の森林についても、保健文化的な面での機能発揮を期待されるものが多くなっています。このような中で、北海道の森林を代表する樹種の一つであるミズナラは、木材資源としてだけでなく貴重な存在となっており、今後、ミズナラ資源の保続培養を図ることが重要な課題となっています。

このような課題に対応するため、旭川営林支局では、昭和55年度からミズナラの種子を職員などが山にまき付ける「ドングリ・ポケット運動」による森林づくりに取り組んできているところであり、その内容について紹介します。

運動のはじまり

北海道の旭川地方は家具をはじめとして木材の高度加工技術に優れ、また全国的にも有数の広葉樹材の消費地でもあることから、今後も広葉樹資材の需要増大が見込まれています。しかし、大径広葉樹材の供給力は質・量ともに年々低下傾向にあることから、この需要にどうこたえていくかが当支局としても大きな課題となってきたところで

す。このため、当支局では北海道の代表的な樹種であるとともに木材資源として貴重なミズナラの造

成を図るため、經常の造林事業とは別の角度から昭和55年度に「ドングリ・ポケット運動」を提唱し、職員自らがドングリをポケットなどに入れておき、林野巡視や事業実行の際に、トラクタ集材路周辺や土場跡地などにドングリをまき付けることを始めました。

「森林よかえれ、森林にかえれ（カムバック・フォレスト）」運動

国民の貴重な財産であり、緑の社会資本ともいうべき豊かな森林を造成することは、環境保全の面からも重要なこととなっています。旭川営林支局では、昭和61年度に国民参加による緑資源の育成と有効活用を図るため、これまで推進してきた「ドングリ・ポケット運動」と併せて、「森林よかえれ、森林にかえれ（カムバック・フォレスト）」運動を提唱しました。この運動は次の二つからなっています。

一つは「ドングリ作戦による教育の森林づくり」です。これは未来を担う小学校の児童を中心に、心身の健全な発育や情操教育に役立ててもらおうとの考えから行っているものです。具体的には、秋に児童を山に招待しドングリを拾い、これを学校に持ち帰ってポットにまき付けし、生育過程を観察し、翌年山に植え付けてもらうものです。平成4年現在では、旭川営林支局管内22営林署全署で約70校、2,000人以上の児童などの参加を得るまでになっています（写真1）。二つめは「国民参加によるニングルの森林づくり」です。「ニングル」とは、劇作家の倉本聰氏が書かれた本に登



写真1 児童によるドングリのまき付け



写真2 伐根周辺にまき付けたドングリの発生状況

場する富良野周辺に住む妖精のことで、この「ニングル」にあやかって、国民参加による森林づくりを進めようというものです。

官民一体となった取り組み

平成元年度には、「21世紀に向けた森林づくり」をテーマに、「ドングリ・ポケット運動」を各事業の実行過程に取り込み、着実な運動とするため、請負業者や立木買受業者に対して要請を行いました。具体的な取り組みとしては、ドングリのまき付け適期である5月および9月から10月に、製品生産事業や立木販売所などにおいて、木を伐った人自らが伐根の周囲に1株当たり5か所10粒程度をまき付けるものです。平成元年から3年までのまき付け量は元年122kg、2年272kg、3年369kgと年々増加しており、総まき付け量は763kgとなっています（写真2）。

「ドングリ銀行」の設立

「ドングリ・ポケット運動」は官民一体となって推進するまでに発展してきましたが、毎年継続して運動を進める上で問題が生じてきました。それはミズナラの種子（ドングリ）が毎年確実に着果しないということです。一般的に種子には豊凶の年があり、ドングリの場合、3～5年に一度しか豊作とならないため、凶作の年に備えドングリの保管・貯蔵をする必要とその体制づくりが急務となりました。このため、関係機関の旭川地方造

林協同組合、旭川地方製品生産事業協議会、旭川地方素材生産事業協同組合、旭川林産協同組合など26団体が集まって「道北森林資源育成協議会（通称：ドングリ銀行）」が平成2年7月に設立されました。

「ドングリ銀行」の主な事業内容は、①「ドングリ・ポケット運動」の啓蒙・普及、②ドングリの採取・まき付けおよび③ドングリの保管・貯蔵です。具体的には、「ドングリ・ポケット運動」の啓蒙・普及では、ミズナラ資源の大切さや「ドングリ銀行」の業務内容などをまとめたリーフレットを平成2年12月に作成、平成3年9月には子供向けのリーフレットを作成し、子供から大人までの啓蒙・普及に取り組んでいます。ドングリの採取・まき付けについては、林道周辺などの種子採取の容易な場所において、形質良好な種子採取用のミズナラの母樹を22営林署全署で各署20本以上を設定し、種子採取の整備を行いました。ドングリの保管・貯蔵については、保管・貯蔵に関する技術が未確立であるため、各種試験のデータ収集や試験調査を実施し、保管・貯蔵技術の確立に向け努力しています。

「ドングリの森」の設定

「ドングリ・ポケット運動」でドングリをまき付けられた場所は、一般市民が気楽に行くことができないところが多いため、なかなか現地案内することができず、「ドングリ・ポケット運動」

の啓蒙・普及の一つの制約となっていました。このため、利便性が良く、ミズナラに関する種々の情報・知識が得られる場所を探した結果、旭川市から車で約1時間の深川営林署沼田森林事務所75林班（雨竜郡北竜町）に平成3年7月、ドングリ銀行と共同で「ドングリの森」（面積約4ha）を設定しました（写真3）。「ドングリの森」の具体的な取り扱いとしては、伐採後の伐根周辺にドングリのまき付け、ミズナラ苗木の植え付け、遊歩道の作設などを行い、森林教室や自然とふれあう集いなどのイベント会場として利用し、森林の必要性や「ドングリ・ポケット運動」の啓蒙・普及を推進することを考えています。平成4年10月には旭川営林支局とドングリ銀行の関係者で「ドングリの森」の整備（ドングリのまき付け、ミズナラ苗木の植え付け）を実施しています。



写真3 「ドングリの森」の設定

「緑（ドングリ）のフレンドシップ会員」制度
「ドングリ・ポケット運動」を一般市民の間にさらに広げるため、平成3年9月「'91森林の市」と10月8日旭川市買物公園での「木の日」のキャンペーンで「緑（ドングリ）のフレンドシップ会員」を募集し約70家族が会員となりました。この制度は、会員が自宅でドングリをポットにまき付けて育て、翌年会員を山に招待し、葉が出た苗木を会員自ら植え付けてもらうという趣旨で、家族ぐるみで森林づくりを進めることを主眼としています。また、平成4年9月「'92森林の市」で会

員を募集し新たに25家族が会員となりました。さらに、10月に昨年会員となられた家族を旭川営林署管内の国有林に招待し、家庭で育てていただいた苗木の植え付けを実施するとともに、再度ドングリを育ててもらおうようドングリを預けました。

ライオンズクラブによる森林づくりへの協力

ライオンズクラブはアメリカ合衆国に本部を置く国際的な民間の社会奉仕団体で、日本には1952年に支部ができ、各地で種々の社会奉仕活動を行っていることはよく知られているところです。平成4年7月、ライオンズクラブ331-B地区の本部が1年間旭川に設置されました。この地区は道北・道東地域を包含しており、参加クラブは97、会員数は約4,500人となっています。当地区ガバナーは活動方針として森林づくり、とりわけ「ドングリ・ポケット運動」を推進することを提唱し、各クラブでは具体的な行動に取り組んでいます。行動内容としては、①「ライオンズクラブの森」の設定とそこでのドングリのまき付け、②会員が家庭でミズナラの鉢にドングリをまき付けて育て、翌年「ライオンズクラブの森」で植え付け、③ドングリを拾い「ドングリ銀行」に預けるなどです。ライオンズクラブの行動に対し、旭川営林支局とドングリ銀行が場所の選定やノウハウの面で協力しています。

今後の取り組み

以上述べてきたように、「ドングリ・ポケット運動」を推進するために種々の方策を講じ、大きな広がりを見せているところです。これからこの運動を一層実のあるものにしていく上で重要なことは、ドングリの長期貯蔵技術の確立と「緑（ドングリ）のフレンドシップ会員」による森林づくりへの積極的な参加が挙げられます。

まず、ドングリの長期貯蔵技術については、豊作年に多くのドングリを集め、2年以上の長期貯蔵を可能にする必要があり、バイオコントロールシステムを活用し、土壌改良材を開発して貯蔵効果を高めるなどの試験研究をドングリ銀行が実施

しています。次に、「緑（ドングリ）のフレンドシップ会員」による森林づくりへの積極的な参加については、ドングリのまき付け、植樹のほか身近な森林づくりへの参加方法として、会員自らが公園などへドングリを拾いに行き、ドングリ銀行へ預けるような意識となるよう啓蒙していくこと

を考えています。その他に地域の官公庁・企業関係の代表者を森林に招き、直接森林にふれあってもらい、森林づくりの大切さや、「ドングリ・ポケット運動」の普及について理解を深めてもらうためのイベントを定期的に開催することも検討しているところです。

平成4年度 第28回 通常総会のご案内

下記により当協会の第28回通常総会を行いますので何とぞお繰り合わせの上ご出席下さるようお願いいたします。

記

日 時 平成4年11月18日（水）午後1時15分

会 場 旭川市5条6丁目左10号 ニュー北海ホテル 2階 凌雲西の間

なお、ご欠席の場合は、議案決定数の必要上お手数ながら、ウッディエイジ9月号綴じ込みの「第28回通常総会開催のお知らせ」の委任状にご署名ご捺印の上ご回付下さい。

講演会のお知らせ

日 時 平成4年11月18日 午後3時から

会 場 前記会場に同じです

演 題 現実のものとなった木材と化学加工

講演者 京都大学木材研究所 教授 則元 ^{みさと}京氏

※大変参考になる講演ですので、会員以外の方でも大いに聴講されるようお待ちしております。

則元先生の略歴と講演内容

先生は昭和39年に京都大学農学部林学科を卒業されました。その後、宇治にあります京都大学木材研究所木材物理部門に助手として任官され、講師、助教授を経て教授になりました。木材研究所の機構改革にともない、現在は木質科学研究所の木質バイオマス大部門物性制御部門の教授です。先生は木材学会第3期研究分科会「スーパーウッド」の代表者をはじめいろいろな学会・研究会の要職を兼任されており、名実ともに日本の、というより世界の、木材の化学加工の第1人者です。

先生のご専門は多岐に渡り、木材のレオロジーなどの物理的な性質の研究、アセチル化をはじめとする化学処理木材の合成およびその物性、セルロース誘導体合成とその研究の過程で非常に興味深い事実の発見や実用的な発明が数多くなされています。たとえば、木材を使用した家の方が住みごちがよいことを実証された

り、電子レンジを利用した曲げ木の手法を開発されたり、木材の表面のみを圧密化する方法など、この短い紙面ではとても全てを紹介できません。今回の御講演ではこれらの話題とともに木材の化学処理についての最新の情報をお話いただけるものと思われま。

今後の林産業の発展のためには、木材を1次産品として売るのではなく、より高付加価値化を図ることが必要ですが、そのためには化学加工も重要な手段と考えられます。すでに本州方面では大手の企業はほとんどこの分野の研究に着手しています。このあたりの生の情報を入手する絶好の機会と思われましますのでぜひご参加ください。

話題も豊富で、研究室で毎夜の様にかかれる「夜のゼミナール」は学生はもちろんのこと、海外の研究者の間でも有名です。この御講演を通じて、最新の知識とともに先生のあたたかいお人柄にも触れて頂きたいと思ひます。